

令和5年度 学校自己評価（中間報告）

上田市立武石小学校

学校教育目標	めざす子どもの姿	総合評価		
だれにもやさしく げんきよく しっかり学ぶ武石の子	学び合い高め合う子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、元気に学校生活を送っている児童が多い。 ・学年関係なく、仲良く遊んだり、教え合ったりする姿が見られる。 ・グループ活動や話し合い活動を通して、意見を言い合ったり、ICT 機器を活用したりし、学び合いの場面を設定した。 ・学校行事において、子どもたちの支え合い、学び合いの場面を多く見ることができた。 ・音楽会、運動会から、元気な中にも、課題に真剣に取り組む姿が見られた。(学校運営委員の方より) 		
今年度の 重点目標	「良いところ見つけ・生活を整える・自ら考え、伝える」			
	成果と課題	指標	改善策・向上策	学校関係者評価
重点1 豊かな人間性 自分の良さと共に、 友だちの良さを認められる	・道徳の時間を中心に、「相手の気持ちや立場を考慮すること」を指導してきた。また、学級の時間では学級会を開き、お楽しみ会等を企てる経験をさせることで、クラス全体で「仲間づくり」を意識して生活させた。少しずつではあるが集団として頑張ろうとする姿が見られるようになってきた。 ・学年を超えて活動ができる児童が多い。高学年は低学年の面倒を見たり、お手本になったりしている。	B	・今後の行事等を通してより仲間としての気持ちを醸成していく。教師が発見したよいところを積極的に子どもたちに伝えていく。 ・自己評価、相互評価の行い方について考えたい。	・放課後自習室に来ている児童は、よく学習に取り組んでいる。放課後自習室を通して学習習慣がつけばよいと思う。 ・運動会での姿をみていると子どもたちが生き生きとしていて嬉しく思う。学校生活の充実を感じる。
重点2 健康・体力 生き生きと活動できる子	・元気アップタイムで体力向上に向けた取り組んだ。 ・「体を動かすことが楽しい」と思っている子がいる一方で、体を動かすことに対して消極的な気持ちをもっている子もいる。ひとりひとりが、それぞれ体を動かすことへの楽しさを感じてほしい。	B	・それぞれの学年、個人に合った目標を設定し、そのために何をするのか明確な活動を設定してやっていく。 ・なかよしタイムやクラスレクなど児童が積極的に体を動かす活動を今後も仕組んでいく。	※11月末、2月に再度評価を提出していただく予定です。
重点3 資質・能力の育成 課題に向かって粘り強く考え、 伝え、解決できる子	・算数の課題、道徳、国語の課題など考えて発表する機会をできるだけとり、自分の考えを伝える時間をとった。 ・めあて・まとめ(ふりかえり)を意識して授業を実施した。授業の流れをパターン化することによって、子どもたちも私自身も見通しをもって学習に取り組むことができた。	B	・人に伝えるところに課題が残る。今後も機会を増やし、少しずつできるようにしていく。 ・基礎基本の確実な定着のために、家庭学習の工夫、ICT 機器の効果的な活用をしていく。	

領域	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策・向上策				
				A	B	C	D	
教科 育 指 導 活 動	授業改善	・ICTの活用を進めることができたか。 ・主体的・対話的で深い学びのある授業を行うことができたか。	・子どもたちが、ICT 機器、chromebook を使う場面を多くとることができた。今年度は、開校150周年記念と言うこともあり、ステージ発表の準備や調べ学習に活用した。 ・小人数を生かし、互いがリラックスして語り合う授業展開を図った。(伝え合う力)		○			・ICT活用ありきにならない活用場面の工夫をしていく。 ・主体的、対話的で深い学びを行う授業にするために、子どもたちの興味を引き出す学習課題の設定はどうあったらよいか考えていく。
	思考力・判断力・表現力を伸ばす	・めあてや具体的な手立てがわかる課題解決型の学習ができたか。 ・文字や言葉で表現する場を多く設定できたか。	・モニターでの提示、手本の資料、板書の工夫、デジタル教科書の活用など、視覚支援を心がけた。 ・毎時間の授業の流れ、やること、目標が分かる板書を心がけ、継続したことで、子どもたちも毎回その黒板を見て、1時間の流れを確認していた。 ・言葉で表現する場があるとき、ない時に偏ってしまったので、毎回少しずつでも設定していくことが課題。		○			・ペア活動、グループワークなど、子ども同士が考えを深め合えるような活動を、毎時間少しでも取り入れたい。形だけにならないような工夫も必要。 ・児童が見通しを持ち、積極的に取り組めるような授業を仕組めるようにするために、学習課題やめあてを明確にする。
	家庭学習の充実	・「手引き」を活用し、家庭学習が充実がなされているか。	・年度当初に家庭への周知は行った。5月にたけっ子学習週間の実施をし、家庭学習への意識を高める取り組みを行っている。12月に2回目を実施予定。		○			各家庭、児童自身の家庭学習への意識、大切さを理解できていない部分が多いため、さらに周知が必要。 ・自主学習の取り組みについて、系統性を持たせた取り組みになるよう、職員間で共通理解を図っていく。 ・継続的に指導していく。
	南部支会の連携	・南部支会4校での児童生徒の交流が図れたか。 ・学年会・教科会等での学び合いができたか。	・各学年の交流を行ったり、連絡を密にしたりしている。 ・小中交流や、音楽交流、オンラインで実現できた。 ・日常的にオンライン交流は難しかった。 ・他校の自主学習の取り組みを紹介し合うことで、お互いにより刺激になった。 ・今年度は直接会い、武石川や他校での交流ができた。直接会って話ができることは子どもたちにとってもありがたかった。		○			・小3校が足並みを揃え、交流をさらに深めていく。 ・直接会って交流ができるようになったので、計画的に交流できるようにしていく。
	特別活動	・自発的・自主的な活動がなされたか。 ・共生社会の担い手を育成する児童会活動がなされたか。 ・「個の確立」を図る学校行事や集会活動がなされているか。	・どの学級も元気に活動している。個を大切にし、どの子にも自己肯定感を高める活動、声かけを全職員で積極的に行っている。 ・様々な理由で、思うように活動に参加できない児童もいるため、児童の心に寄り添いながら自主的に参加できる支援を考えていくことが課題。		○			・子どもたち一人一人に居場所があるように、職員が子に合わせた支援が出来るようにしていく。 ・子どもたち同士で「認め合う」場面を日常的に設けていきたい。 ・学級経営の見直し、子どもへの関わり方、見取り、声かけなど、教師同士が連携し、全職員で武の子どもたちを育てる意識をさらに高めたい。 ・全校での行事を大切に、集団(仲間意識)を大切にしたい。
道徳 総合	心を耕し考えを広める時間の充実	・教材研究が十分できたか。 ・地域の素材を生かした学習ができたか。	・連学年で米作りに取り組んだことにより、学年間交流ができた。地域の方とも交流できたりした。 ・特別老人ホームにもしびれに行き、人権の花を届けたり、武石音頭を披露したりした。できるだけ交流を図りたい。 ・道徳の授業では、自分の考えの変化や、友だちの考えを聞くことで、いろいろな考えがあることに気づく授業を仕組むことができた。		○			・地域の連携を大切に総合的学習の時間の教材を子どもたちの実態に合わせて考えていく。 ・行事が重なり、準備や活動が困難なところがある。年度当初から計画的に進めていくことが必要。 ・地域素材、児童の実態に合わせて道徳の教材を選んでいく。
学 校 と の 関 係	家庭・地域との 相談・支援 体制	・児童、保護者の声を大切にされた相談を行い、支援につなげることができたか。	外部関係機関と連携をし、登校渋りのある児童に、「不安を話せる」人を増やすことができた。 ・より学びやすい場を、保護者と連携して探ることができた。 ・ノートや日常的な連絡を密にし、相談できる雰囲気を作ることができた。 ・相談週間で担任と一人ひとりの児童と懇談を行った。子どもの悩みを知る良い機会となった。その子の悩みに対し、どんな支援がよいのか話し合うことができた。 ・保護者の悩みの声を聞き、支援につなげることができた。		○			・不登校傾向改善に向けて、今後も家庭、原級との連携を図っていく。 ・児童の悩みとご家庭での悩みを学校としてきちんと聞き、主訴をとらえたい。どんなことが問題になっているのか、全職員で共通理解し、職員全体で対応できるようにしたい。

校 運 営	連携	情報発信 ・学校便り、学年便り、ホームページ等で学校の様子を伝えているか。	・学年だよりを通して、子どもたちの学校での様子を伝えることができた。 ・金管バンドだよりで、活動の様子を伝えることができた。 ・月一の学校だよりや週一回のHPの更新で校内の出来事を発信している。また、地域の力を借り、(丸子テレビ・佐藤新聞店さんをお願いしている折り込み)できる限り、多くの情報を発信するようにしている。	○	・今後も、子どもたちの良い面が伝わるように、そして、意欲につながる内容を心がけたい。 ・これからも学校方針や多くのことを発信していく。
		地域から学ぶ・地域の教育力の活用 ・自然環境を生かした学びを進めたり、地域の教育力を活用したりすることができたか。	・上田市の支援事業にご協力いただき、芸術家を招いた講座を行うことができた。こういう機会を大事にしていきたい。 ・地域ボランティアの方々に多くの協力をいただき、様々な活動をしている。地域力で多くの体験を行うことができています。地域ボランティアの力に感謝している。	○	・地域の方々の協力を得ながら、今後も積極的に連携し、活動していく。連携はしていくが、やっていただいていることを当たり前と思わずに感謝の気持ちを忘れないようにしたい。
	研修	授業力の向上 ・「みんながわかる・できる」授業実践のために、日々授業改善をし、研究会を通して学ぶことができたか。	・各研究部会が、授業を公開をおこない、全校で学ぶことができた。 ・学力差の大きい中、みんなが分かる授業の実現のためには、どのようにしたらよいか、さらに考えていく必要がある。 ・伝え合う授業をするためにどんな内容、方法の授業を仕組むことが必要かさらに研究を重ねたい。	○	・学校全体で一つの教材の研究をすることで、いろいろな指導法方法を知ることができ、職員の意識改革にもなっている。 ・学力差のある児童をどのように指導していくか。職員の授業改善を図る中で考えていきたい。
	組織	情報の共有・全職員による学び合い・支え合い ・教科指導や生徒指導などに関わる情報を共有し、チームで支援・指導にあたれているか。	・小さなことでも、連絡を密にし、報告するようにしている。多くの先生方が支援、指導してくれるのでありがたい。 ・原級、支援級と常に連絡を取り合いながら進めていけてよかった。 ・授業やそれ以外での子どもたちの様子を職員間で共有することや、相談することを積極的に行い、多くの職員の中で子どもたちを見ることができた。そして、自分自身も支えられた来たので、職員間のコミュニケーションを今後も続けていきたい。 ・学校全体で情報共有し、配慮を要する児童に対し、支援を続けている。連学年での支え合い、特別支援学級との連携を大切にしている。	○	・今後も、職員間で情報共有し、全職員で子どもたちを見ていく。 ・定例の学年会を中心に、職員間のコミュニケーションを大切にしていく。

A…達成された

B…ある程度達成

C…あまり達成されていない

D…達成されていない